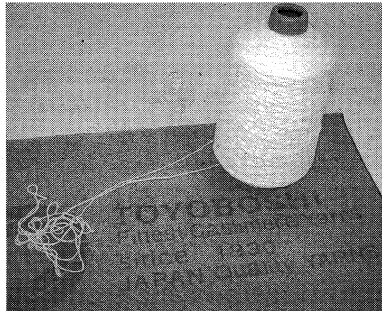


東洋紡糸工業 マスク資材を開発 加工技術でひも、フィルター

紡毛紡績の東洋紡糸工業（大阪府忠岡町）は、このほど耳掛けひもや不織布フィルターなどマスク用資材を開発した。糸加工やタンパク繊維加工技術を応用したもの。同社の系販売先企業には布マスクに参入する企業も少なくないことから、それから取引先に向けて提案する。

耳掛けひも向けに開発したのはポリウレタン弾性系にポリエステルを力バーリングした加工系。特殊な糸加工技術で300%の伸びを表現した。このため耳への当たりがソフトになる。



伸縮性の高さで耳への当たりがソフトに

マスクと口の間に挟み込んで使用する不織布製インナーフィルター「インフィル」も開発。肌側にシルク100%ウエブ、外側にポリ乳酸（PLA）繊維100%スパノンド不織布を配置

し、内部に抗菌性コーティングタンパク質100%ウエブとレギュラーPLA・硬質PLA複合ウエブを挟み込んでスパノンド製法で複合する4層構造とした。

コーゲン成分に抗菌性があるほか、PLAも弱酸性繊維のため抗菌作用が期待できる。肌に接する面はシルクの保水性とPLAの放湿性による気化熱作用で熱を奪うため肌に冷感が生じる。4層構造不織布のため一定のフィルター性能も期待できる。シルクとPLAのための生分解性もある。

同社はカシミアやワール、シルクなどタンパク繊維

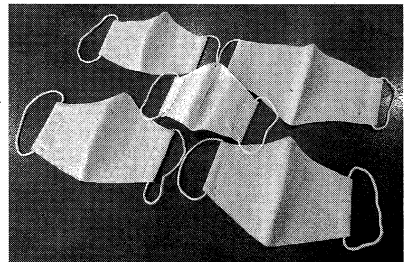
への加工技術を持つっており、それを活用することでシルクやコーゲンタンパク質を応用した不織

布の開発に成功した。今回開発したマスク資材は自社インターネットサイトでの販売のほか、

同社が糸を販売していた取引先で布マスクへの参入を進めている企業に向けて提案する。

アルデバラン コットリネンの夏用マスク 工夫凝らし“本当に良い物”を

薬効手染め製品を製造販売するアルデバラン（岡山県笠岡市）は、コットンリネンを使った夏用マスクを販売している。自社の通販サイトや本社の直営店などで取り扱



標。5サイズで価格は1650〜2050円と高めだが、「多少高くとも本当に良い物を販売したい」（中村俊二社長）との思いで細部に工夫を凝らす。

表地は生成りのコットン50%・リネン50%の生

地を使用。裏地はオーガニックのシルク100%2枚仕立てで、肌触りの良さや抗菌効果を訴求する。ゴムの縫い合わせ部分は折り返しでリネンが肌に当たることが、かゆくならないよう折り返しの上にシルクを縫い付けている。

SS〜LWまで5サイズを用意。LWはできるだけ日焼けを防ぎたいというニーズから開発した。

同社は新型コロナウイルス禍の中、オーガニッ

折り返し部分の縫い合わせ部分は折り返しでリネンが肌に当たることが、かゆくならないよう折り返しの上にシルクを縫い付けている。